

と き 平成30年2月5日(月) 13:30~14:50

ところ 国見町役場 大会議室(2階)

《出席者》11名

委員：柴田千賀子、八巻忠一、幕田貴士、松浦由美子、藤田誠也、鈴木智子、菊地勝彦

(欠席：実沢和幸、金田由美、森紫乃、星由貴子、高橋修一、佐藤正美)

事務局：岡崎教育長、中田課長、石澤補佐、佐藤主任主査

進行：中田課長

### 1. 開会

課長による開会

### 2. 教育長あいさつ

国見町の子ども・子育て支援事業に対しまして、日頃よりご支援ご協力をいただきありがとうございます。心より御礼を申し上げます。この会議は第2回になりますが、委員の皆様にご意見を頂きながら来年度に向けてより良いものに改善していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

また、国見町コミュニティスクールということで、地域の皆さん方にいろいろとご協力いただき地域と一緒に子育てをしようという方向でやっております。今年は小学校中学校まで延べ500人、件数にすると189件ほど地域の方にご協力をいただきました。保育所幼稚園では読み聞かせ、畑での植物栽培などいろいろとお世話になりました。それらも含めて特徴、特色のある保育教育を地域と一体になって進めていきたいと思っておりますので、委員の皆様のご意見を頂戴いたしたいと思っております。

### 3. 会長あいさつ

皆様いつもお世話になっております。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。早いもので、もう年度末を迎えようとしております。前回は皆様のおかげをもちまして活発な議論をしていただきまして国見町の子ども子育て支援の充実につなげていただいたものと思っております。本日も具体的な支援が示されるようでございますので、時間が限られておりますが、活発な議論をお出しいただいて今後の支援の充実にさせていただけたらと思っております。ここで実はわたくしの所属大学が国見町の幼稚園さんといろいろ協定を結びまして体力面での支援をさせていただいて、この1年間の調査をさせてもらいました。年度末ということでいろんな調査結果がでてまいりまして、前の会議でちょうど話してをしておりました。直接はこの会議には関わりわないかも知れませんが1年間寄り添って見せていただいたところ健やかに育っているように見えるこの国見町の子供達にも課題が山積しているというところも出てきました。たとえば就寝時間が大変遅くて睡眠時間が短いということ、朝食を食べている子どもの割合は全国に比べ80%と高いのですが、排便率はとても低いということが、とても興味深い結果が出ています。これはただ早寝早起き朝ごはんというのをスローガンのように言っていればよいのではなくて、その質というものにも足を踏み入れて議論していく周りの自治体も含めて考えていく必要があるというのも見えてきたのではないかと思います。また肥満児が多いというところですが具体的に言うと男児が52.5%、女児が40%ということで数字から見ても喫緊の課題というところも見えてきました。そん

なところも少し頭の隅においていただいて、町全体で広げて子どもたちと一緒に安心安全そして健やかに育っていくにはどうしたらよいか考えていくことが必要な時期ですので、どうぞどんな視点からでも結構ですので忌憚のないご意見を頂ければと思っております。

#### 4. 議題

##### (1) 平成29年度後期子供子育て支援事業取組状況について

事務局より取組み状況について説明

鈴木委員：未就学児体力向上支援ということで、今福島県は震災の影響もあり体力低下していることが問題となっており素晴らしい取り組みと思いました。柴田先生からもあったように睡眠と朝食、排泄という大きな課題がでてきたということですが今回の結果をどこと比較してのものなのか。体力測定の種目、保護者へのフィードバックは今後どうされていくのか。

中田課長：今回初めてのことで来年度も実施していく予定です。今年度につきましては、6月と11月に体力測定しておりましてアンケートと、その結果につきまして今月保護者会がありますので、仙台大学から来ていただいて保護者へ説明していただく予定です。

体力は、私たち素人で見ても子どもたちは毎回運動教室で「投げる、取る、走る」などいろいろなメニューがあるのですが、6月に体力測定をしたときにはボールを「投げる、取る」ができませんでした。11月にはしっかりできるようになっている。6月にできる子はできるが、落とす程度にしかできない子もいた。この差は何の差なのかと思って、できる子に話を聞くとお家でやっている。お父さんとキャッチボールをやっている。3、4、5歳児はみんなできるのだが、そういう機会がないと思う。やればできるのだがやらせる機会がないためにできない。経験不足。毎月の運動教室で「投げる、取る」というメニューを入れていくと、11月の体力測定の時にはできるようになっているというのが見てははっきりわかりました。なんでも体験させることによって、子どもの能力というものは伸びていく可能性が十分あると思いました。

鈴木委員：素晴らしい取り組みだと思います。

柴田会長：比較というところですが、今年初めての取り組みですですので全国平均との比較を出しております。来年も引き続きというお話が出ました。それが実現するとなると前年比ということで4歳から5歳になった、もしくは前年の4歳今年度の4歳児との比較が積み重なるかなと思います。そこが保護者の皆様、幼稚園にかかわっている皆様方にもフィードバックする機会を頂戴するよう調整中ですので、2月に保護者説明会があるとのことですが3月に幼稚園の方との協議の場を入れていく予定でおります。ご意見いただけたらと思います。

柴田会長：総合点検・評価のところでコンサートの保護者からの声で良かったということだが、アンケートでの課題や改善につながるコメントが有ったらすぐ出るようなことがありましたら、たとえばほかのところでいろいろ耳にするのは、乳幼児連れでも大丈夫と言われつつも落ちて聞いて聞けなかったとか、託児室、選曲などいろいろお聞きすることがありますが、改善につながる声があったら教えてください。

石澤補佐：アンケート回収率は高かったが、改善を求めるような声は少なかった。託児室を設けた。選曲も午前と午後で対象年齢のすみわけができた成果があったのかと思う。

(2) 平成30年度幼稚園、保育所等の児童数について

事務局より説明

<質疑応答なし>

(3) 平成30年度事業について

事務局より重点事業について説明

柴田会長：つながり方が大変画期的で、期待の持てるようなつながりで今後展開していくという説明がありました。

私の研究の中心なもので有意義な取り組みがなされていくということで、期待に胸が膨らんでいくところです。全国を見渡すといろいろな名前がついて取組が多岐にわたっている。がしかし、なかなかそこに子育て世代の不安解消につながるまでに実態が伴わない結果も出ている。是非取り組んだことが町民のみなさんのところまで届くようなところまで報告いただきたい。取り組んだことで、どんなふうにながが変わったか、何かの形で見えるような発表の場や、調査の場があると説得力が持てると思います。ほかの自治体でも聞きますが、そこが抜けているので子育ての不安が解消されたとか、いい支援を受けているとかの実感ができない分野であるので、それを後押す結果が出ると安心に繋がると思います。期待しています。

八巻副会長：新規事業であります、包括支援センターの内容ですが、大変結構だと思いますが、どこに設置されるのか。

中田課長：理想としては、センターという器があってその中で母子保健と子育て支援が一緒にできれば理想なのですが、役場保健福祉課と幼児教育課でそれぞれ実施している内容ですので、まず初めに妊娠した方が最初に来る保健福祉課の保健係窓口を支援センターの窓口にしたいと考えています。そこで聞き取りをし、カルテを作ってさまざまな支援をし、子どもが成長すれば子育て支援につながっていきますので、保健福祉課との連携で来年度は実施していきたいと考えています。

鈴木委員：素晴らしい新規事業ということで、また妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援ということで大事な部分だと改めて感じています。平成29年度に厚生労働省から保育所保育指針も大幅に改定され、その中で0、1、2歳児の保育が今回大きな改定のポイントでもあり、乳幼児の0、1、2歳の保育が大事だということなのですが、保育所を利用している方が52.5%、そのほかの方を支援していく町の事業が大事になっていくのではないかと改めて思います。

柴田会長：これが実現され根ずいていくかというところは、委員の皆様の立場で見守っていただくところかと思いますが、実際に動いたところでの感想、ご意見を今後いただくことにしたいと思います。

(4) その他

事務局より国見学園アックティブプランの説明

柴田会長：興味深い取り組みの概要と結果だと思います。

菊地委員：評定のところで1～4の通常はどの辺がいわゆる通常なのか。

中田課長：自分たちで目標を立ててその中でどれくらい浸透してきたか、活動できたとか職員でそれぞ

れ判定しております。

菊地委員：達成度という認識で良いのですか。

中田課長：そうです。

柴田会長：該当する施設の職員が協議して評価をしているということですか。

中田課長：そうです。

柴田会長：多岐にわたる評価ですが、国見町の大きな特徴や成果が出ているものと思いますが、現時点で町外の方にお知らせすることはしているのでしょうか。取組があったら教えてください。

教育長：評価は積極的な公表はしておりません。ホームページも開設しており、小学校中学校も評価は公開しているので、徐々に公開していきたいと思っております。

町外の方にも見ていただいて転入して来ていただけたら良いと思っております。

柴田会長：評価そのものというより、評価項目を出すことで、こんなに細やかに丁寧に行っているのがわかります。先生方、施設長と一緒に協議をして次年度につなげている。保護者をご覧になっても 取組内容が具体的に示されているので方法のひとつになっていると思う。

各施設アンケート結果について事務局より説明

柴田会長：記名の方が回収率が高いですね。質問、回答そのものはいろいろ出方が違うと思いますが、興味深い意見が記載されていると思います。

藤田委員：子どもクラブのアンケートの結果では回収率が50%位で正反対の意見が出てくる。どうくみ取れば良いのか難しいです。

柴田会長：保護者の方と懇談する機会はあるのでしょうか。

藤田委員：全体ではなかなかありません。毎日お迎えの際、個別に保護者と話しておりますが、無記名でのアンケートだといろいろな意見が出るが回収率が下がる。記名式だと意見が出にくい。

中田課長：大学では記名式のアンケートはあるのでしょうか。

鈴木委員：ないですね。状況によりますね。保育所の記名式は回収率を100%にするのにはよいのですが アンケートの内容にもよると思います。

中田課長：答えたことに責任をもってもらうために記名式にしました。

鈴木委員：去年は記名式でしたか。

中田課長：いいえ。

鈴木委員：前年度は厳しい意見が多かったような記憶なのですが、それがなくなったのは、先生方がグループ目標に取り組んだ結果が少なくなった要因かと思ったのですが。

中田課長：記名式となったので、お褒めの言葉が多くなりました。2回アンケートをやっているのですが前は無記名で、今回は記名式としました。

柴田委員：利用者の意見を反映するにはアンケートは大事ですね。

## 5. 閉会

八巻副会長：長時間の審議ありがとうございました。十分に今後の活動に生かしていくようにしていきたいと思っております。